

1. 調査報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成20年5月16日

【評価実施概要】

事業所番号	2791600022
法人名	有限会社 コミュニティーハウス
事業所名	グループホームめいの家
所在地	吹田市五月が丘北6-12 (電話) 06-6877-1100
評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 20年 4月 21日

【情報提供票より】(平成 20年 4月 4日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 7月 1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	16人
職員数	20人	常勤 7人, 非常勤 13人, 常勤換算	11.2人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3階建ての	3階 ~	3階部分

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000円	その他の経費(月額)	35,000円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(450,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200円			

(4) 利用者の概要 (平成 20年 4月 4日現在)

利用者人数	16名	男性	4名	女性	12名
要介護1	1名	要介護2	2名		
要介護3	4名	要介護4	4名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 85.6歳	最低	68歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ほりえクリニック
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

『めいの家』はニュータウンの地名から命名しています。マンションが多く建ち並ぶ町にあった独身寮を改築した民間企業が経営するグループホームです。「心豊かに暮らしていこう！」を理念に利用者の選択を大切に、利用者自身がつくる暮らしを支えて、その日その時を楽しんで、したいこと、してみたいことの夢を叶える支援に力をいれています。職員がボランティアで週2日玄関前の駐車場でたこ焼きの屋台を出し、引きこもりがちな利用者が外気に触れ、買いにくる近隣の子ども達と交流したり、ホーム1階のデイサービスの場所で2ヶ月に1度、地域の方も参加する交流会を持ち『認知症の高齢者への理解を地域に根付かせる』『共に暮らす』という地域密着型サービスを実践しています。職員は利用者から『一寸聞いて・・・』と気軽に希望を伝えてもらい、『大きな笑い声がいつも聞こえるホームで働ける職員は幸せ!』と楽しんで介護を実践しています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連科目:外部4) 今回が初回の外部評価受審です。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 初めての評価を受けるにあたって会議で職員に説明を行っています。管理者と一部職員が協働して自己評価を作成し、全職員に周知するよう提示していましたが十分な理解が得られていませんでした。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は地域の自治会長や民生委員・医師等地域の協力を得て開催し、利用者の状況報告や地域の方も参加する行事の計画等について相談を行っています。しかし開催は1年に1回でとどまっています。
	重点項目③
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族の訪問時に近況報告をし、意見や要望を聴く姿勢で接しています。訪問回数のない家族には電話やメールで近況を伝えています。季刊誌や写真入りのはがきに近況を記し送付しています。職員は家族や利用者自身から意見や要望を聴くことの必要性について理解しており、苦情相談窓口を設けています。意見・要望の受付対応の記録を残し、ミーティングを行って対応しています。近隣からの苦情にも迅速・適切に対応しています。意見や苦情は運営に反映しています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に参加し役員を務め地域の運動会や夏祭りに積極的に参加しています。また、ホームの1階のデイサービスの場所を使用して2ヶ月に1度、地域の方も参加する交流会を開催しています。ホームで犬を飼っており、犬の散歩を近隣の子どもたちがしてくれています。ホーム玄関前の駐車場に『たこ焼きの屋台』を手作りし、週2回開店します。近隣の子ども達も買いに立ち寄るなど、ホームの利用者と子どもたちとの交流も生まれています。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『心豊かに暮らしていこう!』を理念に「『ここに来てよかった』『あなたに会えてよかった』『生きていてよかった』いろいろなよかたを応援します。五月ヶ丘から、出会った全ての人の夢を叶えます。」を運営方針とし、地域の自治会や子ども達の協力を得て取り組んでいます。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームに入ったことで今までの生活や夢が途絶えるのではなく、むしろ支援することで難しいと思えた夢を叶える「利用者視点」を職員が共有しており、具体的な取り組みのために、どのように介護につなげるか話し合っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	自治会に参加し役員を務め地域の運動会や夏祭りに積極的に参加しています。また、ホームの1階のデイサービスの場所で2ヶ月に1度地域の方も参加する交流会を開催しています。開設時にホームでペットの犬を飼い、散歩は近隣の子ども達が受け持ち、ホームに馴染んでもらいました。またホーム玄関前の駐車場に「たこ焼きの屋台」を手作りし、週2回開店します。近隣の子ども達も買いに立ち寄り、利用者との交流の場になっています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	はじめての評価を受けるにあたって会議で職員への説明を行っています。管理者と一部の職員が協働して自己評価を作成し、全職員に周知するよう申し送りノートに提示し、全員が目を通すように取り組んでいます。今回の結果は職員一人ひとりが評価の意義を充分理解し、積極的・主体的に自己評価に関わることによって、今後の改善に結びつけることが望めます。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の自治会長の司会のもと民生委員・地区連自治会長・医師・職員等の参加により、利用者の状況報告・地域の方も参加した行事の計画等についての相談等を行い、具体的な意見を聞く機会を持っていますが、1年に1回の開催に留まっています。	○	グループホームの運営基準による運営推進会議開催の趣旨を理解した上、地域包括支援センターや行政の協力も得てホームの運営者が主体になり2ヶ月に一回以上開催することが求められます。あわせて運営規則の見直しが求められます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○ 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護保険課の主催するグループホーム部会に参加し、市の担当者と情報交換を行っています。季刊誌『meis times』を市担当者にも渡しています。また、地区コミュニティセンターや地域包括支援センターとの交流があります。市からの要請を受けて音楽療法グループのモニターを引き受けてサービスの向上に取り組んでいます。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	訪問時に近況を報告しています。訪問回数の少ない家族には電話やメールで伝えていきます。また、季刊誌や利用者の写真入りのはがきに近況を記し送付しています。預かり金の管理状況についてはコピーを請求書に添えて送付していますが、家族に確認サインはもらっていません。職員の異動については訪問時以外には伝えていません。	○	小口現金の預かりについては月1回、家族に明細を説明し確認した署名を得ることが求められます。また、郵送の場合も発送日の記録などで確認できることが求められます。職員の異動についても家族にも季刊誌等を通して周知する事が求められます。
8	15	○ 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は家族や利用者本人から意見や要望を聴くことの必要性について理解しており、苦情相談窓口を設けています。苦情・要望の受付対応の記録を残し、ミーティングを行って対応し、運営に反映しています。近隣からの苦情にも迅速・適切に対応しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が異動または離職する場合は、利用者負担がかからないよう引継ぎの時間を配慮し、スムーズな移行が行えるよう努力をしています。管理者は利用者へのダメージを軽減する配慮を行わねばならないことに気付いています。新人職員は、利用者や訪問する家族には紹介していますが、季刊誌等を通しての周知も望まれます。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修は実施しています。外部研修の参加者は、職場内で報告し、他の職員に研修内容を伝達しています。資格取得のための研修参加等を応援しています。コミュニケーションや福祉用具の研修など新しいことにも取り組んでいます。年6回の研修や必須項目、年間計画の作成などで必要事項を満たしていません。	○	年間研修計画を作成し、6回の研修（うち2回は外部研修）の受講が求められています。また、研修内容では、『認知症』『感染症』『緊急時対応』が必須になっています。必須項目を計画に加えることが求められます。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市が開催するグループホーム部会・地域連絡会議・担当者会議等に参加し情報交換を行っています。他のグループホームへの見学にも参加しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前の面接時には家族ともゆっくり時間を取って、利用者本人の生活歴や人物像等の情報を得て、本人の希望などを知った上で入居に至るよう努めています。入居前に自宅を訪問し、居室を自宅と同じセッティングにして在宅での生活の継続性を図った例もあります。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	主体的に利用者が選択する機会を常に作っています。また、人生の先輩として子育てについて職員はアドバイスしてもらいます。男性利用者には力仕事に手を貸してもらっています。編み物を習うと進捗に応じて励ましてもらいます。タイピストや記者だった方からは難しい漢字や英語の単語の意味なども教えてもらう機会があります。毎日一緒に笑い合える関係を築くよう心がけています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの希望・夢を聞き取り家族からも情報を得て、日々利用者が望む暮らし方が叶えられるよう支援しています。また、日常的に気軽に『ちょっと聞いて……』と気軽に相談をしてもらえるよう心がけています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居の時点から本人の目標、家族の要望等を職員は聞き取り介護計画に反映しています。作成した介護計画は申し送りノートに貼付し、職員全員が目を通しサインをしています。家族には訪問時に捺印してもらっています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しに必要な書類は揃っていました。基本的には3ヶ月に一度、介護計画を見直していますが、毎月心身の状況の変化に合わせモニタリングを行ない毎月介護計画を更新しています。家族にも示しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多 機能性を活かした柔軟な支援 をしている	受診・通院の送迎を支援して います。併設のデイサービス 利用者との交流が地域との関 わりになっています。利用者 家族の宿泊の要望もデイサー ビスの設備を利用して支援し ています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切 にし、納得が得られたかかり つけ医と事業所の関係を築き ながら、適切な医療を受けら れるように支援している	利用者の主治医とは連絡を常 に取り合い関係を保っています 。通院での受診が負担になる 場合は往診が可能な提携の医 師に引継ぎます。引継ぐ時も 馴染みの関係を築き安心して もらっています。利用者がそれ ぞれのかかりつけ医への受診 を希望し、家族が同行できな い場合は整形外科・眼科・内 科等へ職員が付き添って行き ます。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方 針の共有 重度化した場合や終末期のあ り方について、できるだけ早 い段階から本人や家族等なら びにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有 している	ターミナル期での援助は医療 ・家族・ホーム間で明確な指 針を持ち、利用者自身の意志 を尊重し、家族と協力できる よう話し合い協力して最期の 看取りを行なう取り組みをし ています。看護師資格を持つ 職員がおり、これまでも数例 の経験があります。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護に関する規定を定め、職員に周知し、入職時には誓約してもらっています。訪問時にも利用者の誇りやプライバシーを損ねるような職員の対応は見られませんでした。また、気になる個人情報の取扱いはありませんでした。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの理念と目標にしている『行きたい場所へ行きたい人と、したいこと、してみたいこと等利用者一人ひとりのペースで夢叶えられるように支援する。』を心にとめ、職員は利用者に常に要望を聴く問いかけをしています。身近でできること、喫茶店に行く・スーパーへの買い物・お花見など個々の要望を聴き支援しています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に食事のメニューの希望を聞き、栄養士の資格を持つ職員のチェックをもとに食事を作っています。調理スペースが狭いため普段は利用者が味見や、配膳の手伝いをする程度ですが、おやつ作りや月に1回はデイサービスの食堂を利用して、鍋物やお好み焼きなどを利用者と一緒に作り楽しんでいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には2日に1回の入浴を実施しています。希望すれば毎日の入浴も可能です。入浴を好まない方にも『入りたい』と思うようタイミングを図り入浴が楽しめるように誘っています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	できる限り利用者の好みに合わせ、能力に合った役割を持って日々の生活を過せるよう取り組んでいます。プランターでプチトマトや葱・金柑・小玉すいか等栽培して、昨夏は隣家にスイカをお裾分けしました。算数ドリルによる脳トレーニングや習字・縫い物など好みに合わせた楽しみや気晴らしを支援しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣の公園へ散歩・外食・喫茶・買い物など利用者の希望を聞き外出の機会を作っています。外出を好まない利用者が少しでも外気に触れる楽しみを持ってもらうためホームの玄関前の駐車場にたこ焼きの屋台を手作りし、週2日たこ焼きを販売しています。その日は外出に消極的な利用者も玄関から外に出ています。最低でも週一回以上は全員が外出しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解し ており、鍵をかけないケアに取り組ん でいる	閉塞的なイメージを廃止し、開放的に過ごせ るよう安全に注意を払いながら日常的に開錠 しています。近隣とは見守りや声かけが期待 できる関係を築いています。また身体拘束を 疑う状況や言葉による拘束はありませんで した。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身 につけ、日ごろより地域の人々の協力 を得られるよう働きかけている	年に2回消防署の協力により避難訓練を行っ ています。エレベーター以外には内階段しか 避難経路がありませんが、避難リフトを使っ た避難訓練をしています。防災マニュアルは あり、管理者は広域避難訓練の必要を理解し ています。まだ、災害時の非常用備品の準備 は十分ではありませんでした。	○	災害時の避難場所の確認や災害時の非 常用飲料水や食料、備品を用意し、年1 回点検することが求められます。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている	一日の食事摂取量・水分摂取量を記録し把握 しています。特に食事や水分摂取量が不足す る懸念のある利用者については個人記録にも 記して留意しています。栄養バランスは栄養 士の資格を持つ職員が献立についてアドバイ スしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	独身寮を改築したホームであり、共用空間が広いとはいえませんが、食堂の他に寛げるソファもあります。洗濯物や布団を干しながらバルコニーで外気に触れ、陽射しを楽しむことができます。重度の人も居間で過ごせるよう配慮もありました。不快な音や違和感はありませんでした。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅時の部屋をカメラで写し、居室はできる限り利用者が在宅でいつも使用していた物品を持ち込んで、仏壇・たんす・テレビ・こたつ等ほとんど同じように配置し、変化を最小限に抑えています。装飾等も利用者の好みに合わせています。その取り組みにより、利用者は落ち着いて生活を継続されている例があります。		